

平和について

山王中学校 楠本 乃理

私は平和について考えた時先生に中学一年生の時平和の反対は戦争じゃないと言われた事を思い出しました。ではなぜ平和という言葉聞いた時真っ先に対になる言葉として戦争が出てくるのか、平和を題材とした番組は戦争に注目するのか考えました。

まず戦争のイメージについて考えた時兵器や兵士など戦争で扱われる物や人々の嘆き悲しむ顔などのマイナスのイメージが出てきます。いずれも戦争で生み出されてしまう物です。一方で平和のイメージについて考えた時人々の笑顔や平和の象徴とされている鳥の絵、動物、森林、雲、共存などジャンルも見方もそれぞれ違う物が出てきます。そう見比べた時に思ったのが平和というのは抽象的すぎるし、戦争というのは具体的な物なのだなと思いました。それでもやっぱり平和のイメージの中には戦争で生み出される物と反対になる物もありました。「侵略」「共存」「悲しみ」「笑顔」「消費」「生産」など。なので私は平和というすごく抽象的な概念の中に戦争という具体的な出来事の対となる言葉やイメージが多くふくまれていること、戦争の主題となる「侵略」などの言葉が平和のイメージの言葉の一つと対になっていると考え、出した結論は「戦争の反対は平和と言えるが、平和の反対は戦争ではない」ということです。

ということは戦争を題材とする文章や話しには戦争を防ぐための活動、平和への呼びかけなどが頻繁に使われています。これは人々が考える平和を実現することができれば戦争をする理由がなくなる、つまり戦争で起こることのほとんどが平和によって反対のことになるということです。なので、戦争を悲劇として取り上げるならばそれを防ぐための言葉や目標として平和を使うわけです。こうした戦争の反対を平和とした文章が多くあることで戦争の反対は平和イコール平和の反対は戦争という認識になってしまうわけです。平和という言葉が抽象的であるがゆえにこういった認識にな

るのだと私は思います。

では平和とはなにか、私は個人個人がえらぶ最良の個性に少し似た未来だと思います。

誰しも平和の定義が同じとは限りません。戦争を防いでも誰かにとって平和になるかと言われたらそうでもない、平和という言葉があまりにも抽象的すぎてそれぞれの解釈を得ないと行動にうつすのはむずかしいと思います。

でも一人一人が理想の選択をすること、それは本当に最良なのでしょうか？平和というのは大多数の人が感じているならば良いというわけでもないと思います。

誰もが自分に最良の選択をするために、誰かの選択が誰かの平和をこわさないために私達はひろく話し合うべきだと思いました。そもそも戦争をなくすためとよく唱えている共存や協力は話し合うことをしなければ実現しないことですが、それぞれが自分の思いや理想を好き勝手におし通すだけではただの口論になってしまう、なので私が平和のために必要だと思ったのが話し合うため立ち上がる勇気と周りの事を考えて行動できる力です。

理想論すぎるかもしれませんが、理想をかかげなければ立ち上がれません。平和とは平和につながる行動とはそういった、基本的な物、理想、目標としてかかげられ人々が立ち上がるため一丸となって胸にかかげられる物なのではないでしょうか。